

釧路湿原川レンジャー News 2009 Vol.5

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成21年10月15日(木)
場所：標茶町茅沼

平成21年10月15日(木)に、「第3回釧路湿原川レンジャー学習会」が開催され、24名が参加して、茅沼地区で進められている旧川復元事業の効果を把握するためのモニタリング調査を実施しました。

茅沼地区旧川復元事業とは？

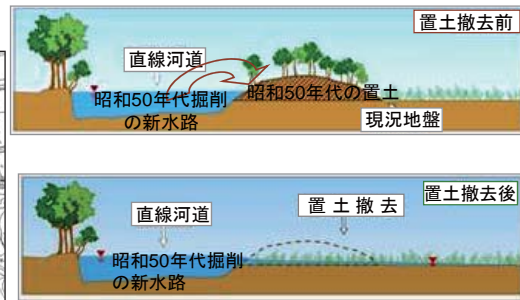
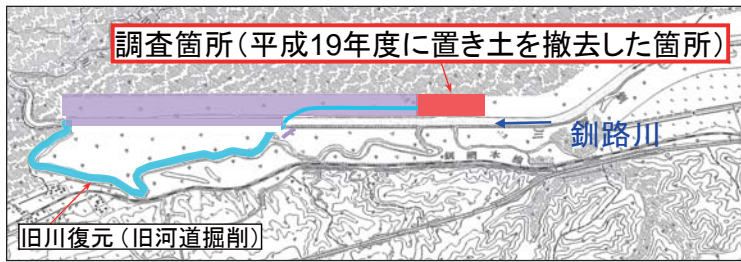
茅沼地区は、昭和50年代に河川の直線化が実施されました。河川の直線化は、周辺の土地利用を可能とした一方で、湿原植生の減少、湿原中心部への土砂流出量の増加など、湿原への負荷が高まりました。このような状況を受け釧路開発建設部では、茅沼地区旧川復元事業を平成18年度から実施しています。

今回調査していただいたのは、直線河道を掘った時に出てきた土が積み上げられ、川の水が溢れにくくなっていた箇所を撤去した箇所(平成19年度)で、掘った直後は土がむき出しになっていました。



植生調査について

置土を撤去して土がむき出しになった箇所が、どのように湿原の植物に回復するかを調べることを目的に、植生調査を実施しました。



調査結果 (構成種の推移)

平成21年は湿生植物であるイ(イグサ類)が優占する方形区^{※1}がほとんどでした。しかし、ヨシについても数は少ないがほとんどの箇所で確認できました。

各方形区で確認された平均種数については、15種類(H20年)から10種類(H21年)程度に減少する結果となりました。これはH21にはH20にほとんど見られなかった水たまりの湛水箇所が創出されたことなどから、湿原環境で生育できない種が枯死したためと考えられます。

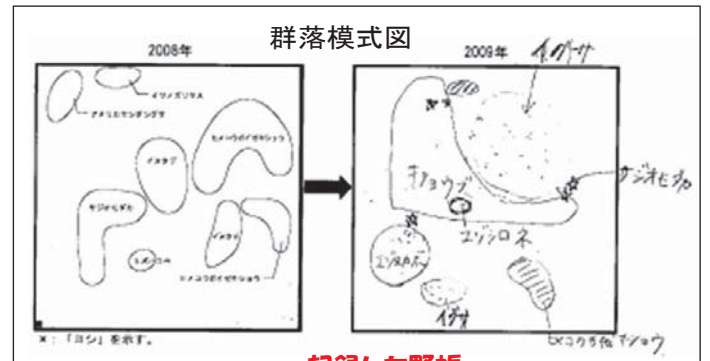
※1 方形区：あらかじめ設定した2×2mの正方形の調査区域。

調査結果 (群落高及び植被率)

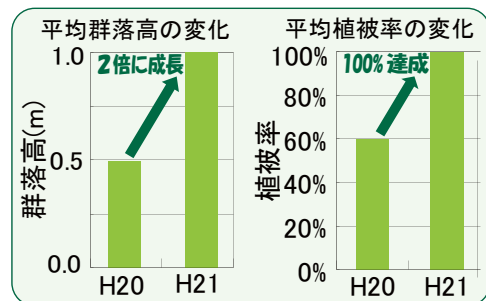
いずれの箇所でも群落高は、H20の約2倍の1.0m程度に成長していました。

また、植被率^{※2}についてもH20は約60%であったものが、H21にはほぼ100%となり、順調な再生の経過を見せています。

※2 植被率：2×2mの方形区に、植物が占める割合。



記録した野帳



真剣に説明を聞く参加者



ヨシの長さはいくら？



サンプルを見ながら調査

昆虫調査について

昆虫は生物の多様性にとって非常に大事で、この地域のように植物の再生が進むと昆虫も戻って来ます。種類も草原や林など、場所によっても種類が違います。

今回の調査は、「見つけ採り法」で昆虫を採取しました。

一般的な昆虫の調査・採取方法

- ・見つけ採り：追いかけて取る
- ・ベイトトラップ：土にカップを入れて採る
- ・ビーティング：木を蹴って落ちる虫を捕まえる
- ・スウィーピング：植物の中に網を入れて採る
- ・ライトトラップ：明かりに集めて採る
- ・目撃：採らずに見て調査する

昆虫の調査結果

- ・草原：ハチ、ハエ類が非常に多かった。
- ・林：甲虫・カメムシ・クモなどが見られた。
- ・川が近いため、天気がよければトンボ類も確認されています。(補足)
- ・秋の調査のため、確認された種類は少なかったが、植物が多く、昆虫のすみかとしてはいい環境に戻っています。

自然再生の中で単に地形や植物だけを再生するのではなく、そこに生息する昆虫などの他の生き物と一体となって再生が進むことも大切です。

多く見られた昆虫類



調査の手順を聞く参加者



子供の頃を思いだし何十年ぶりに昆虫採取



採取した昆虫名を野帳に記帳



採取した昆虫をみんなで報告



モニタリング調査に参加した川レンジャーの皆さん

